



## プロコフィエフ、《展覧会の絵》を弾く！？

近藤秀樹

2019年7月20日(土) 11:00  
南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel.073-436-9500



[https://commons.wikimedia.org/wiki/  
File:Sergei\\_Prokofiev\\_03.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sergei_Prokofiev_03.jpg)

### はじめに 一枚のちらし

- プロコフィエフが1920年2月3日、米バッファローで行ったピアノ・リサイタル
- 曲目に、何とムソルグスキー《展覧会の絵》が！ [●p.2]

### 1. 妥協の産物？

- 1918年、プロコフィエフは日本経由で渡米。徳川頼貞、大田黒元雄との交友。  
[● 第1回定期講座「プロコフィエフ 日本滞在の真実」(平成30年1月21日)]
- 渡米後は経済的に困窮。  
歌劇《3つのオレンジへの恋》を作曲するも、上演延期。  
[●ミニレク「プロコフィエフ、再び～スケルツォと行進曲」(平成30年6月16日)]



ピアニストとしての演奏活動で糊口をしのぐことに。

- 1920年2月3日のリサイタルのプログラム  
前半: 古典派からロマン派の作品(バッハ、ベートーヴェン、シューマン)  
後半: ロシア音楽&自作 ※自作は《悪魔的暗示》など、技巧的な小品が中心。

理由①: マネージャーたちから「なるべく自作を弾かないように」要請される。

理由②: 「ロシアから来た作曲家・兼・ピアニスト」をウリにする。

……プロコフィエフは苦境に立たされる。貯えがみるみるなくなり、おまけに、絶えず「センセーショナルなもの」に熱中する移り気なアメリカ人は、プロコフィエフの存在すら忘れてしまったのである。「経済的に立直るために」やっとのことで一連の演奏会を開くことができた——が、自分が作曲家であることを忘れるように強いられたのである。リサイタルのプログラムには、ムソルグスキーの《展覧会の絵》や、シューマンの《謝肉祭》、ショパンの《マズルカ》、スクリャビンの《練習曲》、ラフマニノフの《前奏曲》といったものが並ぶことになる。コンサートの終わりでやっど、若い頃の自作の小品を二、三曲、たとえば《悪魔的暗示》(作品 3)とか《ガヴォット》(作品 12)などを弾くことができるという始末であった！ (ミシェル・R・ホフマン『プロコフィエフ』音楽之友社、1976年。p.57-58)

- 《展覧会の絵》：後半の「ロシア音楽」コーナーの一部。  
 ボロディン、リムスキー=コルサコフ、スクリャビン、ラフマニノフの小品とセット。  
 妥協して、仕方なく入れた……？

*Sidney Burton Series*  
 ELMWOOD MUSIC HALL  
 Tuesday Evening, February 3rd, 1920

3 February 1920 **SERGE PROKOFIEFF**

*The Remarkable Russian Composer-Pianist*  
**Programme**

Fifth French Suite	I.	
		<i>Bach</i>
Three Country Dances	II.	<i>Beethoven</i>
C Major		
E Flat Major		
C Major		
Epilogue	III.	<i>Schumann</i>
Pictures from an Exhibition	IV.	<i>Moussorgsky</i>
I. Promenade		
II. Bydlo		
III. Ballet de Poussins dans leurs coques		
IV. Le vieux Chateau		
V. Samuel Goldenberg und Schmul		
VI. Limoges		
(a) Au Convent	V.	<i>Borodin</i>
(b) Novелlette		<i>Rimsky Korsakoff</i>
(c) Gavotte		<i>Glazounoff</i>
(d) Caresse dansee		<i>Scriabin</i>
(e) Prelude G minor		<i>Rachmaninoff</i>
(a) Prelude	VI.	
(b) Marche		
(c) Etude No. 4		<i>Prokofieff</i>
(d) Gavotte		
(e) Suggestion Diabolique		

STEINWAY PIANO USED  
 FURNISHED BY DENTON, COTTIER & DANIELS

<http://archives.bpo.org/pre-prokofiev-3-feb-1920.jpg>

リサイタルの前半は、バッハ、ベートーヴェン、シューマン。シューマンの曲 Epilogue は、歌曲集《ミルテの花》作品 25 の終曲のピアノ独奏版(クララ・シューマン編)かと思われる。

ムソルグスキー 《展覧会の絵》の抜粋。

ロシアの作曲家によるピアノ小品。ボロディン、リムスキー=コルサコフ、グラスノフ、スクリャビン、ラフマニノフ。

プロコフィエフ自身のピアノ小品。(a)(b)(d) は《10 の小品》作品 12、(c) は《4 つのエチュード》作品 2 から。最後の曲は《悪魔的暗示》。

プロコフィエフが 1920 年 2 月 3 日にリサイタルを開催した、バッファローのエルムウッド・ミュージック・ホール。



<https://buffaloah.com/h/elmmusic/elm.html>

## 2. 《展覧会の絵》を弾くという冒険

### ・ムソルグスキー《展覧会の絵》

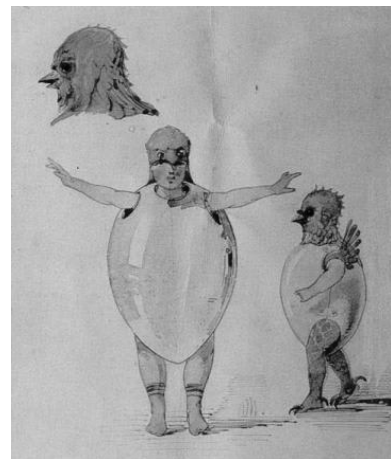
モデスト・ムソルグスキー (Modest Mussorgsky 1839-1881) の代表作のひとつ。

友人の建築家・デザイナー、ヴィクトール・ガルトマン (Victor Gartmann 1834-73) の追悼展覧会にインスパイアされて作曲。

生前は出版されず。1886 年にリムスキー=コルサコフによって出版。



▲ ムソルグスキーの肖像(レーピン画)



▲ガルトマンによるバレエの衣装。  
☛く卵の殻をかぶった雛の踊り

1922 年にラヴェルが管弦楽化してから有名に。

当時は、ピアノ原曲はあまり知られていなかった(「名曲」として認知されていなかった)。

楽譜はリムスキー=コルサコフが校訂(改悪?)したものしか出版されていない。

ピアノ独奏版が広く演奏されるようになるのは、20 世紀後半になってから。

☛ 1920 年前後にリサイタルで《展覧会の絵》を弾くのは、かなりの冒険??

### 3. 異形の《展覧会の絵》

- プロコフィエフが弾いた《展覧会の絵》

- ① 全曲ではなく抜粋。

- 「絵」は 10 枚から 5 枚に。プロムナードは冒頭の一曲のみ。

- ② 曲順を大胆に変更。第 7 曲〈リモージュの市場〉で終わる。

- この選曲と配列の問題点

《展覧会の絵》の構成と流れ

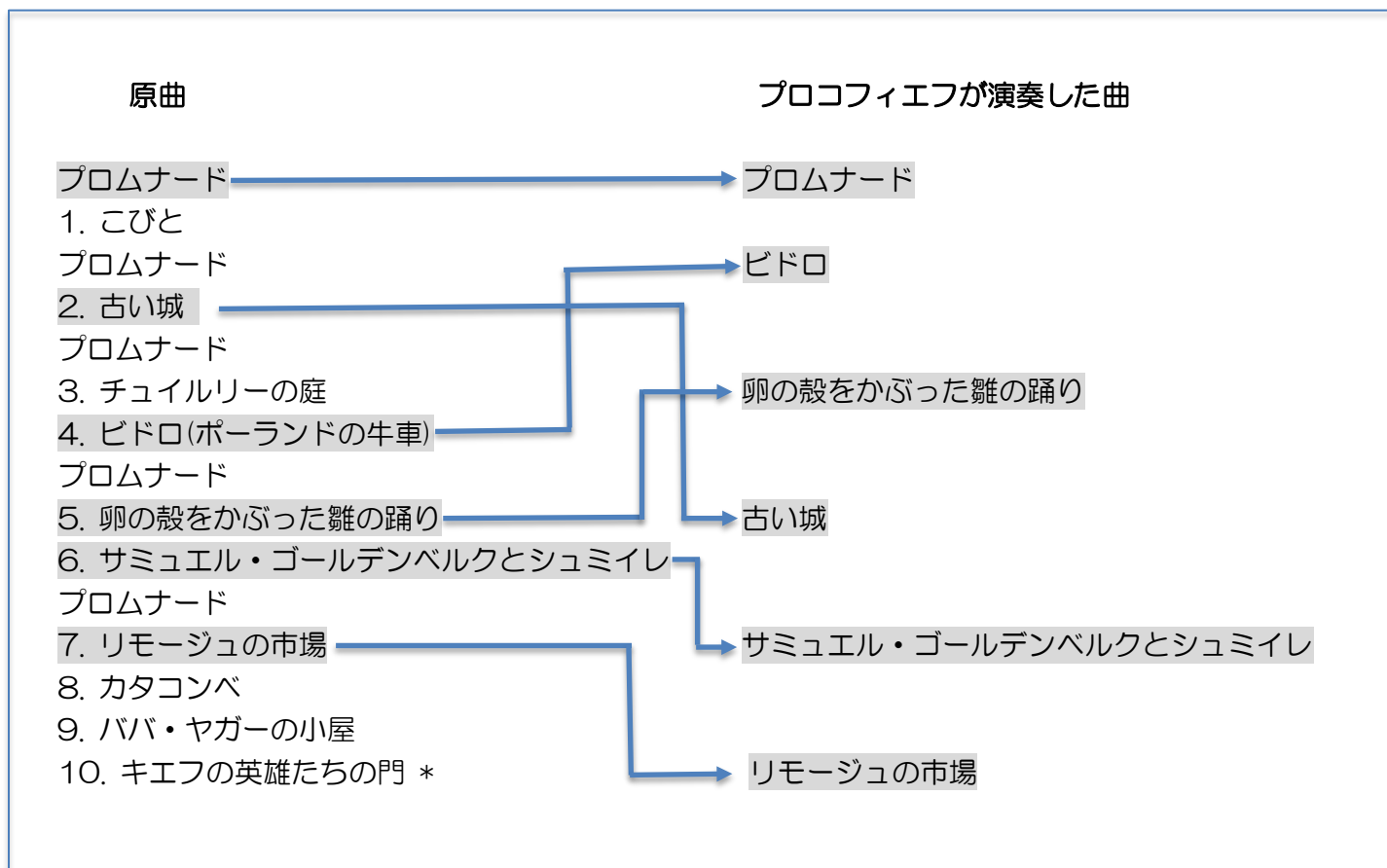
- ① 原曲 = 「絵」 + それを観て回る人(作曲者?)の心理状態をあらわす「プロムナード」

- ② プロムナード = 「絵」と「絵」をつなぐ間奏曲 ≡ 順路

- さまざまな場所と時代を経過って、最後にロシアに戻ってくる。

「絵」の抜粋と「プロムナード」のカット、曲順の変更により、①②は崩れてしまう。

#### ムソルグスキー 《展覧会の絵》



\* 「キエフの大門」と訳されることが多いが、「大きな門」ではなく「英雄たち (Bogatyr) の門」である。Bogatyr はフィリーナ (ロシアの口承叙事詩) に登場する英雄たちを指す。ここではとりわけ、キエフで太陽の君ヴラディミール公を助けて活躍した英雄たちが念頭に置かれているものと思われる。

- この選曲と配列の意図ないし効果

最初のプロムナードを除いて、すべてのプロムナードを削除

※ 第8曲〈カタコンベ〉、第10曲〈キエフの英雄たちの門〉では、  
曲の中にプロムナードの主題が出てくるが、これら2曲はカットされている。



- ① 曲集全体の流れ or ドラマを解体。各曲はばらばらの小品と化す。

一旦、ばらばらにしたうえで、自由に組み合わせる。

cf. プロコフィエフ《束の間の幻影》／プロコフィエフのバレエ組曲

- ② プロムナードという間奏(つなぎ)が無くなることで、各曲(「絵」)の対照が際立つ。

- 〈リモーシュの市場〉と、春

1919年4月、プロコフィエフは猩紅熱にかかる。

回復期に、リサイタルにそなえて《展覧会の絵》をさらう。

→ 病から回復していく過程と、春という季節と、〈リモーシュの市場〉とが重なり合う。

[●プロコフィエフの日記、1919年4月6日-6月6日]

これが、〈リモーシュの市場〉を《展覧会の絵》抜粋の最後に置いた理由か？

\*原曲では〈リモーシュの市場〉は次の〈カタコンベ〉に切れ目なく続くので、

プロコフィエフは演奏にあたって〈リモーシュの市場〉の最後の部分に手を加えたと推測される。

#### 4. プロコフィエフとムソルグスキー

- リサイタルのレパートリーとしての《展覧会の絵》

プロコフィエフは、1919年～22年に、他のリサイタルでも《展覧会の絵》を取り上げている。

- レコーディング

自動ピアノのロールに、自作のピアノ曲と併せて、《展覧会の絵》の一部(最初のプロムナード、第2, 4, 5曲)も吹き込む。

(1919年2月に、アメリカ合衆国で Duo-Art 社と五年間の契約を交わす。)



- 《年とった乳母のお話》

(Contes de la vieille grand'mère) 作品 31

1918年作曲。

プロコフィエフが渡米後、最初に作曲したピアノ曲。全4曲。

各曲にタイトルはついていないが、

乳母が子どもにしてくれる物語をイメージして作曲か？

第3曲をピアノロールに録音。

第3曲 Andante assai

ムソルグスキー〈ビドロ〉(《展覧会の絵》第4曲)に似ている? (Nestyev の指摘)



▲ プロコフィエフ 《年とった乳母のお話》第3曲冒頭



▲ ムソルグスキー 〈ビドロ〉(《展覧会の絵》第4曲) 冒頭

・ムソルグスキー-プロコフィエフ・プログラム

1922年10月26日、ソプラノのヴェラ・ヤナコプロス(Vera Janacópulos 1886 or 1892-1955)とジョイント・リサイタル。

\*プロコフィエフはムソルグスキー《展覧会の絵》と自作のピアノ曲を演奏。

\*ヤナコプロスはムソルグスキーとプロコフィエフの歌曲(《アフマートワの詩による歌曲》)を歌う。



ヴェラ・ヤナコプロスはブラジル出身のソプラノ。ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、ミヨー、ファリャ、ヴィラ・ロボスらの作品を歌った。プロコフィエフの歌劇《3つのオレンジへの恋》の仏語台本は、作曲者とヤナコプロスの手になるものである。

[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vera\\_Janacopulos\\_\(1933\).tif](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vera_Janacopulos_(1933).tif)

○ 主要参考文献

ミシェル・R・ホフマン『プロコフィエフ』清水正和訳、音楽之友社、1976年。

Israel V. Nestyev: *Prokofiev*; translated from the Russian by Florence Jonas, Stanford University Press, 1960.

Sergey Prokofiev: *Diaries 1915-1922: Behind the Mask*; translated by Anthony Phillip, Cornell University Press, 2008.